# ISID Business Report　2012.4.1-2013.3.31

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第38期（2012年4月1日～2013年3月31日）の連結売上高は、727億64百万円（前期比113.9%）となりました。欧州の債務危機や新興国の成長鈍化を背景に事業環境は厳しく推移したものの、中期経営計画「ISID Open Innovation 2013～価値協創～」の推進２年目として、競争優位分野の選択と集中を通した差別化をさらに徹底し、お客様にとって価値あるソリューションの提案に注力しました。その結果、電通向けならびに電通協業分野の売上高が大きく拡大し、また金融業向けや製造業向けも堅調に推移しました。

利益面でも、研究開発活動を積極的に推進しているため、販売費及び一般管理費は増加しましたが、増収効果により吸収し、営業利益41億92百万円（前期比178.5%）、経常利益43億11百万円（前期比172.7%）、当期純利益26億22百万円（前期比173.0%）と大幅な増益を達成することが出来ました。

### 配当金について

当社は、株主の皆様への長期的かつ安定的な利益還元を基本方針として掲げております。当期末の配当につきましては、従来通り1株あたり10円とさせて頂きました。第2四半期末の配当金とあわせ、年間配当金は1株につき20円となります。

### 次期（第39期）の経営方針について

第39期の業績は、リーマンショック発生直前の第34期とほぼ同水準の、売上高755億円（前期比103.8%）、営業利益44億60百万円（前期比106.4%）と予想しております。経済情勢は一部に回復の兆しが見られており、企業のIT投資の拡大が期待される中、金融業向けならびに製造業向けを中心に増収増益を目指します。

当社グループといたしましては中計の実行による差別化をさらに推し進め、お客様や社会が直面する課題の解決に資する価値あるソリューションの開発・提供に取り組み、さらなる業績の拡大、収益性の向上を図って参ります。

より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年6月

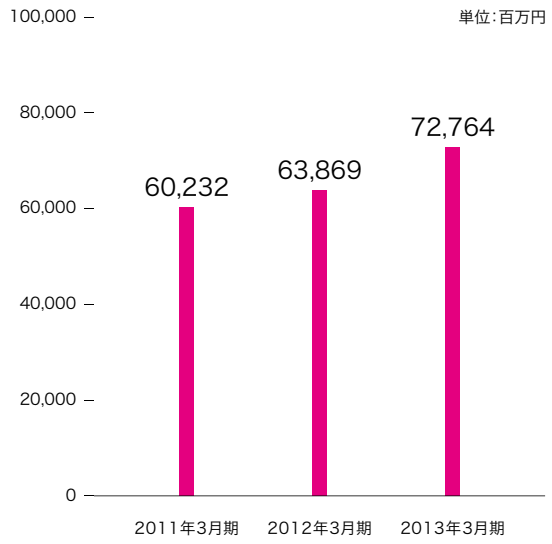
代表取締役社長　釜井節生



# 業績ハイライト

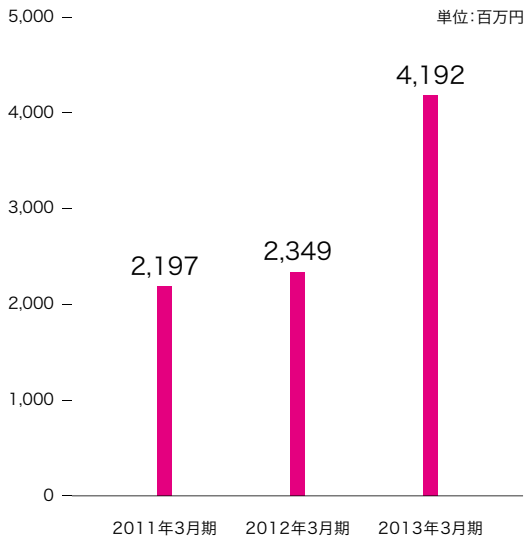
## 売上高 72,764百万円
## 前期比 113.9%

金融ソリューション、エンタープライズソリューション・エンジニアリング系、コミュニケーションITの各セグメントにおいて売上高が拡大した結果、連結売上高は前期比113.9%となりました。



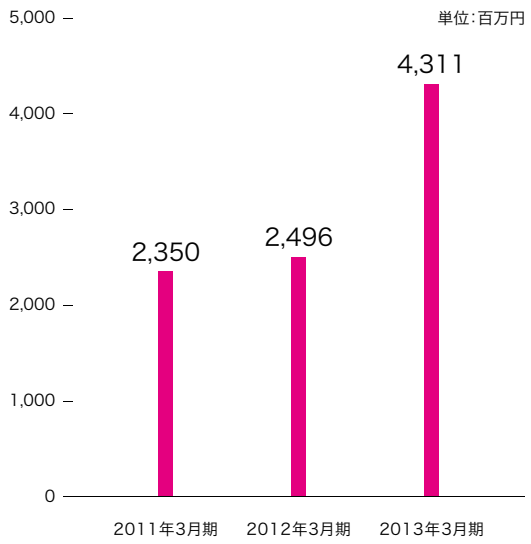

## 営業利益 4,192百万円
## 前期比 178.5%

研究開発活動の拡大等により販売費及び一般管理費は増加したものの、増収効果により、営業利益は前期比178.5%となりました。



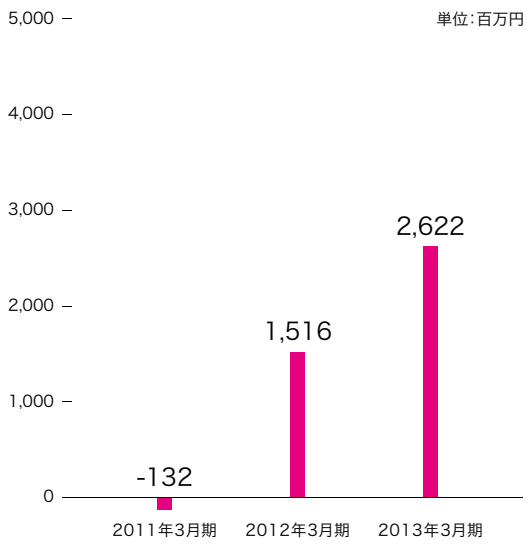

## 経常利益 4,311百万円
## 前期比 172.7%

営業外収益、営業外費用はほぼ前期並みに推移しました。この結果、経常利益は前期比172.7%となりました。




## 当期純利益 2,622百万円
## 前期比 173.0%

特別損失に固定資産除却損等を計上したものの、当期純利益は前期比173.0%となりました。



# 事業セグメント別の営業概況

## 金融業向けに ITソリューションを提供する事業

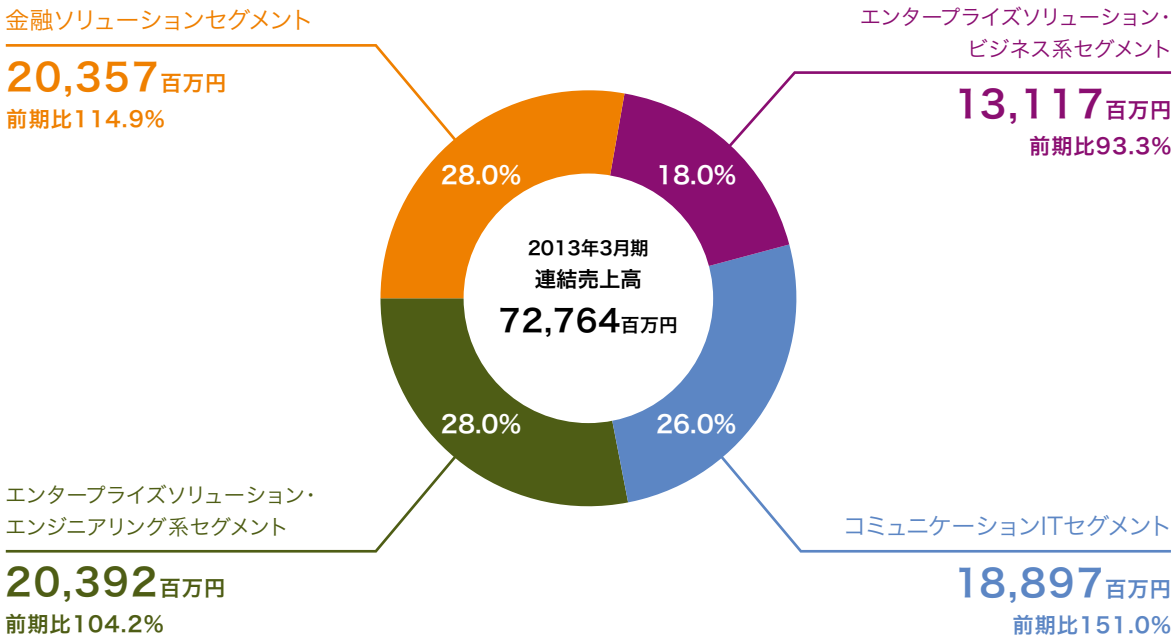
**金融ソリューションセグメント**

メガバンク向けに提供しているシステム開発サービスが、国内ならびに海外（上海現地法人や米国現地法人）において拡大したほか、地域金融機関向けやネット系金融機関向けも堅調に推移しました。加えて、証券会社等に金融情報サービスを提供する株式会社アイエスアイディ・フェアネスを当期から連結の範囲に含めたことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

## 企業の基幹業務における ITソリューションを提供する事業

**エンタープライズソリューション・ビジネス系セグメント**

人事・給与・就業管理ソリューション「POSITIVE（ポジティブ）」の販売が大きく伸びたことに加え、連結会計ソリューション「STRAVIS（ストラビス）」の販売も堅調に推移しました。しかしながら、財務会計や管理会計の分野、ならびに基幹システム（生産管理、販売・在庫管理など企業の基幹業務におけるシステム）の分野におけるITソリューションの提供が伸び悩んだことから、当セグメントの売上高は減収となりました。




## 製造業の設計開発分野における ITソリューションを提供する事業

**エンタープライズソリューション・エンジニアリング系セグメント**

製品開発プロセスを対象としたコンサルティングサービス、ならびに製品開発の上流工程である構想設計を支援するソフトウェア製品「iQUAVIS（アイクアビス）」が、主として自動車業界向けに拡大しました。加えて、製品ライフサイクル管理（PLM）ソリューション「Teamcenter」を活用したシステム開発サービスが、自動車や電機・精密業界向け等に堅調に推移したことから、当セグメントの売上高は増収となりました。

## 電通グループ向け、ならびに電通グループとの協業によるITソリューションを提供する事業

**コミュニケーションITセグメント**

電通向けの基幹システム構築サービスが大きく拡大しました。加えて、電通グループとの協業を積極的に推進したことにより、官公庁・公共団体や企業向けに、マーケティング・プラットフォーム「iPLAss（アイプラス）」等を活用した短納期型のシステム開発サービスが拡大しました。この結果、当セグメントの売上高は増収となりました。

# トピックス

## グローバル拠点の拡充<br>インドネシアに拠点設立、タイの事業再開

ASEAN地域においてさらなる事業拡大を図るため、2013年4月にインドネシアに営業拠点として現地法人を設立するとともに、タイ現地法人の事業を再開しました。

ISIDは1980年代より欧州、米国、ASEAN、中国に海外拠点を設立し、主に日系の金融機関や製造業向けに基幹業務システム等を開発・導入してきました。このたびのASEAN拠点網拡充により、製品設計・開発支援ソリューションの現地での販売・導入・サポート体制を強化します。加えて、電通および電通グループの各国拠点とも連携し、主に流通・小売業界を対象にマーケティング・CRM領域等での顧客開拓を図っていく予定です。

このほか、2012年12月には台湾に営業拠点を、米国サンフランシスコに研究開発拠点を設立するなど、ISIDグループはグローバルビジネスの強化・拡大を推進しています。

（2013年1月11日発表）

## 地域金融機関の融資・営業プロセス改革を<br>トータルで支援する「BANK・R 4s」の提供を開始

地域金融機関の融資・営業プロセス改革を支援するサービス「BANK・R 4s（バンクアール フォース）」の提供を開始しました。本サービスは、地域金融機関における融資審査や営業管理など、顧客に関わるすべての業務を顧客起点で再設計・構築し、その定着に至るまでをトータルで支援するものです。

本サービス適用の第一弾として、株式会社滋賀銀行における業務改革プロジェクトの業務再設計・構築フェーズが完了し、新業務システムが稼働、定着化に向けたフェーズに入りました。

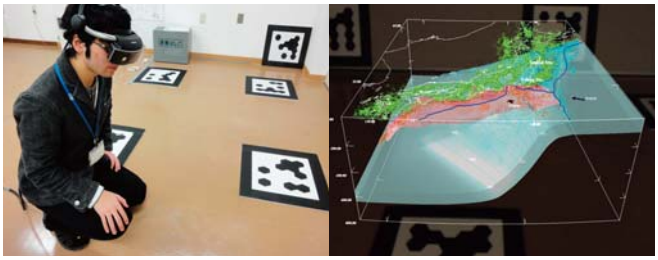
ISIDは今後も、本サービスの提供を通じて、地域金融機関における顧客コミュニケーションの質的・量的向上を支援し、地域金融機関と顧客の安定的な信頼関係構築に貢献することにより、地域経済の発展に寄与してまいります。

（2013年5月7日発表）

## キヤノンのMR（Mixed Reality）システム<br>「MREAL」を販売開始

ISIDは、キヤノンITソリューションズ株式会社と販売パートナー契約を締結し、キヤノン株式会社が開発したMR（Mixed Reality：複合現実感）システム「MREAL（エムリアル）」の販売を開始しました。MREALは、ヘッド・マウント・ディスプレー（HMD）上に、周囲の映像と対象物の3次元データを融合したデジタル画像を表示するものです。HMDに表示されるデジタル画像は、ユーザーの動きに瞬時に対応し変化するため、利用者は目の前に対象物があるかのような感覚を体験できます。販売開始に先駆けて、東北大学地震・噴火予知研究観測センターにおいて、地震や火山噴火のメカニズム解明に向け、観測データの新たな表示ツールとして本システムが採用されました。

（2013年3月6日発表）



東北大学地震・噴火予知研究観測センターでのMREALの利用の様子。利用者（写真左）が装着するHMDには、日本列島の地殻構造の3次元データが表示されている。（写真右）

## トヨタ自動車北海道が統合人事パッケージ<br>「POSITIVE」を採用

トヨタ自動車北海道株式会社の人事系基幹システムとして、ISIDが開発・提供する統合人事パッケージ「POSITIVE」が採用され、2013年1月より稼働を開始しました。採用にあたっては、給与計算の高速処理が可能である点や、同社独自の要件に応じた追加機能の開発に柔軟に対応できる点などが評価されました。

（2013年4月16日発表）

## グランフロント大阪で、世界初のソーシャルシティ・プラットフォームが稼働

4月26日にまちびらきした大阪駅北口の大型複合施設「グランフロント大阪」において、ISIDが研究開発および事業化を進める世界初のソーシャルシティ・プラットフォーム「+fooop!（プラ フープ）」が、街と来街者の新たな交流を生む「コンパスサービス」に適用され、同日より稼働を開始しました。

「コンパスサービス」は、グランフロント大阪の運営組織である一般社団法人グランフロント大阪TMO（TMO）とISIDが共同で企画・開発したもので、単なる情報検索やクーポン配信等にとどまらない多彩な機能を搭載しています。ISIDとTMOは、グランフロント大阪を、常に最先端のテクノロジーを実装する実験都市としても位置付けており、今後「コンパスサービス」を通じて、来街者一人ひとりの状況によりフィットした情報提供を行うための各種実証実験を展開していく計画です。

（2013年4月23日発表）




「コンパスサービス」は来街者の行動に応じて、館内のデジタルサイネージやスマートフォンから、その人に最適な街情報を提供。

## 企業のグローバル&グループ経営を支援する子会社「ISIDビジネスコンサルティング」を設立

企業のグローバル&グループ経営領域におけるビジネス課題の解決により一層貢献すべく、業務コンサルティングサービスを専業とする子会社「株式会社ISIDビジネスコンサルティング」を設立し、2013年4月1日より営業を開始しました。

新会社は、ISIDが数多くの顧客企業とのプロジェクトを通じて培った経営管理・会計・人事・事業オペレーションの各領域に関する業務およびITの知見と、豊富なプロジェクトマネジメント経験を生かし、変化の激しいグローバル市場における日本企業の経営課題を解決に導くコンサルティングサービスを提供してまいります。

（2013年2月7日発表）

## ミラーサイネージを活用した新しいチャリティの形を提案する「スマイル募金プロジェクト」を開始

ISIDオープンイノベーション研究所（イノラボ）は、株式会社バハマ・パブリッシャーズと共同で、ISIDイノラボ開発によるミラーサイネージを活用した「スマイル募金プロジェクト」を開始しました。本プロジェクトは、笑顔を起点とした新しいコミュニケーションを企業の社会貢献活動に適用していく実験プロジェクトで、企業スポンサーとの協働で展開していきます。

プロジェクト第一弾として、デンタルプロ株式会社の協賛により、同社の被災地支援活動「週末さとやま留学」と連動したチャリティプログラムを、4月26日から約3カ月にわたり展開します。「スマイルミラー」をグランフロント大阪ナレッジキャピタル内に設置し、来場者の笑顔を集めて、福島の子供たちに大阪の里山キャンプをプレゼントします。

（2013年4月22日発表）




グランフロント大阪ナレッジキャピタルに設置された「スマイルミラー」。来場者が前に立って笑うと、笑顔の度合いなどを判断し、「笑顔を貯める」ことができる。

# 第38期における中期経営計画の取り組み状況

## 中期経営計画「ISID Open Innovation 2013 ～価値協創～」

### 基本方針

①競争優位分野への集中

②電通との協業加速

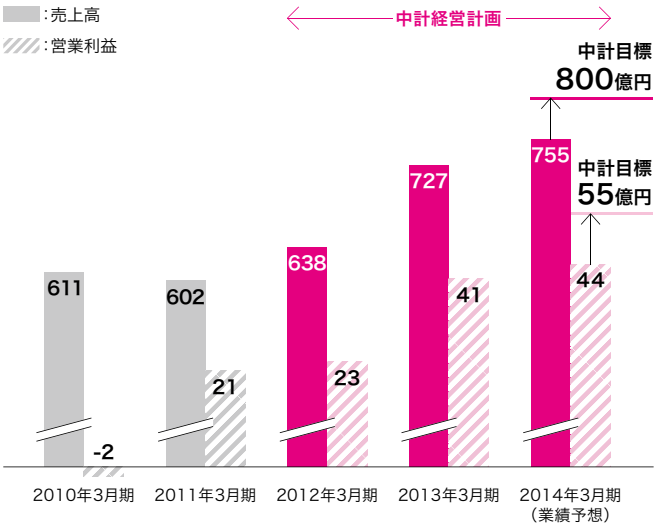
③先端技術活用による新規ビジネスの開発

④人材力強化

⑤安定収益基盤の拡充

⑥コスト構造改革

### 業績目標（単位：億円）




### 業績推移について

中期経営計画2年目となる第38期は、基本方針に基づいた活動が一定の成果を上げ、大幅な増収増益を達成することが出来ました。しかしながら、最終年度となる第39期の業績予想値は、当初設定した業績目標（連結売上高800億円、営業利益55億円）に対し、欧州債務危機など外部環境変化の影響を受けた結果、現時点においては未達の見込みとなっております。

当社グループといたしましては、中期経営計画の実行による差別化をさらに推し進め、お客様や社会が直面する課題の解決に資する価値あるソリューションの開発・提供に取り組むことで、さらなる業績の拡大、収益性の向上に努めてまいります。

### 基本方針の取り組み状況について

#### ①「競争優位分野への集中」について

各事業セグメントにおいて、競争優位性のある分野に人材や研究開発投資の集中を図り、事業の拡大に取り組んでいます。

特に製造業向け事業においては、競争力のあるソリューションをお客様視点で構築・提供すべく、2013年4月付けで、ともに製造業を主要顧客としていた当社単体のビジネスソリューション事業部とエンジニアリングソリューション事業部を統合しました。

#### ②「電通との協業加速」について

電通との協業において、官公庁・公共団体や企業向けの提案機会が拡大していることに対応し、ソリューション提供体制を増強しました。また、協業の基盤となるマーケティング・プラットフォーム「iPLAss」を開発し、提供を開始しました。

#### ③「先端技術活用による新規ビジネスの開発」について

オープンイノベーション研究所（イノラボ）が中心となり、ソーシャルシティ・プラットフォーム「+fooop!」を開発しました。
「+fooop!」はイノラボ初の大型事業化案件として、2013年4月オープンの「グランフロント大阪」に採用されました。

#### ④「人材力強化」について

人材育成の指針や標準モデルを定めたガイドラインや各種教育制度を新たに策定し、運用を開始しました。また、社員のモチベーション向上を目的として新人事制度の策定にも取り組み、2013年4月から運用に入っております。

#### ⑤「安定収益基盤の拡充」について

安定的な売上高の計上を見込むことができるストック型ビジネスの拡大を目指し、システム運用監視サービスを強化したことに加え、クラウドソリューションの拡充を図りました。

#### ⑥「コスト構造改革」について

管理間接部門の人員適正化、管理業務の効率化、経費削減に加え、オフショア開発の積極的拡大等による原価抑制に取り組みました。2013年4月付け組織機構改革では、管理間接部門のスリム化を実施し、人員の適正化を図っております。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期 2013年3月31日 | 前期 2012年3月31日 |
|---|---|---|
| **資産の部** | | |
| **流動資産** | **38,145** | **33,716** |
| **固定資産** | **20,653** | **18,579** |
| 有形固定資産 | 5,608 | 6,024 |
| 無形固定資産 | 4,971 | 4,796 |
| 投資その他の資産 | 10,072 | 7,758 |
| **資産合計** | **58,798** | **52,295** |
| **負債の部** | | |
| **流動負債** | **17,214** | **15,001** |
| **固定負債** | **3,679** | **3,012** |
| **負債合計** | **20,894** | **18,013** |
| **純資産の部** | | |
| **株主資本** | **35,637** | **33,417** |
| 資本金 | 8,180 | 8,180 |
| 資本剰余金 | 15,285 | 15,285 |
| 利益剰余金 | 12,199 | 9,979 |
| 自己株式 | △ 28 | △ 28 |
| **その他の包括利益累計額** | **2,238** | **864** |
| **少数株主持分** | **27** | – |
| **純資産合計** | **37,903** | **34,281** |
| **負債純資産合計** | **58,798** | **52,295** |

## 連結損益計算書

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期 自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日 | 前期 自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日 |
|---|---|---|
| **売上高** | **72,764** | **63,869** |
| 売上原価 | 50,271 | 43,986 |
| **売上総利益** | **22,492** | **19,883** |
| 販売費及び一般管理費 | 18,300 | 17,533 |
| **営業利益** | **4,192** | **2,349** |
| 営業外収益 | 238 | 258 |
| 営業外費用 | 119 | 111 |
| **経常利益** | **4,311** | **2,496** |
| 特別利益 | – | 106 |
| 特別損失 | 111 | – |
| **税金等調整前当期純利益** | **4,199** | **2,603** |
| **法人税等合計** | **1,570** | **1,086** |
| **少数株主利益** | **6** | – |
| **当期純利益** | **2,622** | **1,516** |
| **包括利益** | **4,002** | **2,059** |

## 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

| 科　目 | 当期 自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日 | 前期 自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日 |
|---|---|---|
| **営業活動によるキャッシュ・フロー** | **4,761** | **2,406** |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー** | **△ 2,883** | **△ 1,502** |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー** | **△ 1,674** | **△ 1,764** |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 282 | 5 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 485 | △ 855 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 10,562 | 11,417 |
| 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 410 | – |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 11,459 | 10,562 |

# 第39期(2014年3月期)の通期業績予想

（単位：百万円）

| | 2014年3月期 業績予想 | 2013年3月期 実績 | 前期比 |
|---|---|---|---|
| **売上高** | **75,500** | **72,764** | 103.8% |
| **営業利益** | **4,460** | **4,192** | 106.4% |
| **経常利益** | **4,700** | **4,311** | 109.0% |
| **当期純損益** | **2,870** | **2,622** | 109.5% |

・売上高は前期比3.8%の増収を予想しています。主として金融業向けならびに製造業向けの拡大を計画しております。

・営業利益は前期比6.4%の増益を予想しています。円安による原価増、人員増に伴う人件費増等があるものの、増収による増益を目指します。

# プロフィール

## 会社概要

| | |
|---|---|
| **社　名** | 株式会社電通国際情報サービス |
| **英文社名** | Information Services International-Dentsu, Ltd. |
| **本　社** | 東京都港区港南二丁目17番1号 |
| **事業所** | 関西支社・中部支社・広島支社・三鷹オフィス |
| **設　立** | 1975年12月11日 |
| **連結従業員数** | 2,295名（2013年3月31日現在） |
| **連結子会社数** | 13社（国内7社・海外6社） |
| **ホームページ** | www.isid.co.jp |

## 取締役および監査役

| | | | |
|---|---|---|---|
| 代表取締役社長 | 釜井 節生 | 常勤監査役 | 鈴木 貞夫 |
| 取締役 | 福山 章弘 | 監査役 | 一條 和生 |
| 取締役 | 市川 建志 | 監査役 | 伊沢 富男 |
| 取締役 | 上原 伸夫 | | |
| 取締役 | 梅沢 幸之助 | | |
| 取締役 | 吉本 敦 | | |
| 取締役 | 小林 明 | | |
| 取締役 | 堀沢 紳 | | |
| 取締役 | 遠谷 信幸 | | |

# 株主メモ

| | |
|---|---|
| **事業年度** | 毎年4月1日～翌年3月31日 |
| **期末配当金受領株主確定日** | 毎年3月31日 |
| **中間配当金受領株主確定日** | 毎年9月30日 |
| **定時株主総会** | 毎年6月 |
| **株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関** | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| **同連絡先** | 三菱UFJ信託銀行株式会社<br>証券代行部<br>〒137-8081<br>東京都江東区東砂七丁目10番11号<br>Tel.0120-232-711<br>（通話料無料）（平日9:00～17:00） |
| **公告方法** | 電子公告とし、当社ホームページ（http://www.isid.co.jp）に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| **単元株式数** | 100株 |
| **上場証券取引所** | 東京証券取引所市場第一部 |
| **証券コード** | 4812（銘柄名 ISID） |

**（ご注意）**

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱ＵＦＪ信託銀行）ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関（三菱ＵＦＪ信託銀行）にお問い合わせください。
なお、三菱ＵＦＪ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未払配当金のお支払い等につきましては、株主名簿管理人（三菱ＵＦＪ信託銀行）にお問い合わせください。

# お問い合わせ先

## 株式会社 電通国際情報サービス

〒108-0075 東京都港区港南2-17-1　03-6713-6160（IR関連）　03-6713-6055（株式事務関連）

www.isid.co.jp（当社Webサイトからもお問い合わせいただけます）

＊本レポートに記載されている会社名、製品名、サービス名およびロゴは、ISIDもしくは各社の商標または登録商標です。